

笑顔と

神奈川県立金沢養護学校

やさしい心



学校だより

かなざわ

第 182 号 令和 4 年 9 月 26 日



人と人とのつながり

校長 福田 裕志

今年の夏はとても暑い日が続き、熱中症にならないように気をつけながら生活しなければならなかった状況でしたが、9月も後半に入り、ようやく秋らしく、過ごしやすい気候になってきました。これからは勉強にスポーツ、芸術と、何事にも力いっぱい取り組めると思います。2学期には修学旅行や校外学習を計画している学部、学年も多くあります。すでに実施したところもありますが、これからも新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、安心、安全を第一に実施できればと考えます。

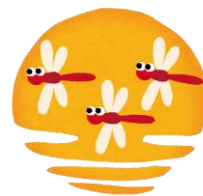
さて、9月1日の2学期の始業式において、私から「応援」についての話をしました。この夏に行われた高校野球は、多くの一般の観客が入り、ブラスバンドも入った応援で盛り上がりましたが、ある調査では、応援することで選手の運動量がアップするという報告があります。選手たちは、多くの人からの期待や声援があったからこそ、実力を精一杯出し切ることができたのではないかと思います。また選手たちのがんばる姿を見て、応援している側も元気をもらえたのではないのでしょうか。このことは野球だけではなく学校生活においても同じことが言えます。様々な活動の中でお互いを励まし合い、応援し合うことで、どちらもより力を発揮することができます。人と人がつながり、協力し合いながら、金沢養護学校の児童生徒全員が活躍できるようになってほしいです。

また、8月の下旬に横浜高島屋でふれあい作品展、9月の前半にはシーサイドライン新杉田駅での作品展示がありました。本校の児童生徒の作品、学習の成果物が展示され、多くの人に観てもらうことができました。一人一人の感性と努力が作品の中に表れていて、どれも素晴らしいものばかりでした。このように作品を観てもらうことは、金沢養護学校の児童生徒の力を多くの人に知ってもらえるチャンスだと考えています。地域の人に理解してもらい、認めてもらうことは、将来の共生社会の実現へとつながっていきます。そして人と人が認め合い、つながる中で、子どもたちが将来いきがいを感じながら地域で生活できるようになることを願っています。そのためには地域の人とつながる機会や一緒に活動する場面をこれからも大事にしていきたいと考えます。



学部紹介

高B・分教室



今号は、知的障害教育部門（B部門）の高等部（本校）・分教室の紹介です。

高等部B部門

今年度は、27名の新入生を迎え、2年生は37名、3年生は社会人コース19名、職業人コース12名、総勢95名でスタートしました。

新型コロナウイルス感染症がはやり始めてから3年が経ち、終息の見通しが立たない状況下で、マスク着用やソーシャルディスタンスなど感染予防のための生活習慣を意識しながら、学校生活を楽しんでいます。コロナ前であれば実施可能であったプールの授業が今年度も実施できないことや、校外での学習活動が縮小されている中ですが、そのような状況の中で生徒たちが自立と社会参加に向けて何ができるかを考えながら、学びを積み重ねています。

7月には政治参加教育として、参議院選挙の模擬投票を行いました。投票用紙の受け取りから記入、投票箱に入れるまでの一連の流れを本来の選挙の方法に即して実体験しましたが、緊張して戸惑う生徒や補助員の支援を受けながら投票する生徒など、いろいろな表情が見られました。このような体験を通して、自立と社会参加に向けて成長して欲しいと思います。

（高B学部長 國吉慎一）

分教室

令和4年度は1年生15名、2年生15名、3年生14名、総勢44名の生徒が、高校生活を楽しみつつ、高等部卒業後の進路に向けて、日々学んでいます。この春に入学した1年生も、ゴールデンウィークが明けるころには学校生活にも慣れ、様々な場面で力を発揮しています。2年生は近隣の企業等での職場体験を経験したことで、一回り成長し顔つきも1年生の頃とは変わってきました。3年生も、それぞれが校外での現場実習に臨み、高等部卒業後の進路選択に向けて、貴重な体験をしてきました。また、実習後にはリモートでの実習報告会がありました。2・3年生から実習についての報告や後輩に対するアドバイスがあり、1年生はメモをとりながら真剣な表情で聞いていました。先輩が個々の目標に向かって取り組む姿、それを良きモデルとして目指そうとする後輩、それぞれの学年がお互いに刺激を受けつつ成長していくことが、横浜氷取沢分教室の特色だと改めて感じました。

（横浜氷取沢分教室長 柴田啓介）